

表 一日当たり発生量（最大貯留量）

有害物質毒性が強い順



有害物質	焼却式			ガス化溶融方式	
	ストーカ式焼却炉	ストーカ式焼却炉 + 灰溶融炉	流動床式焼却炉	シャフト式ガス化溶融炉	流動床式ガス化溶融炉
溶融飛灰	—	13t/日 (13t)	—	8t/日 (8t)	13t/日 (13t)
飛灰	10t/日 (10t)	—	23t/日 (23t)	—	—
飛灰処理物	10t/日 (70t)	13t/日 (91t)	23t/日 (161t)	8t/日 (56t)	13t/日 (91t)
主灰	23t/日 (161t)	—	10t/日 (70t)	—	—
スラグ	—	20t/日 (140t)	—	32t/日 (224t)	20t/日 (140t)

※ 日処理量330tとした。

※ 「—」は、発生しない項目を示す。

※ 貯留日数については、以下を見込む。なお、貯留日数は、今後、計画・設計において決定する。

- ・溶融飛灰、飛灰：1日
- ・飛灰処理物、主灰、スラグ：7日

- 【飛散防止】
- ・溶融飛灰、飛灰については、密閉性の高い容器に保存し、長期間の貯留は行わない。
 - ・保存容器はアンカー等で固定し、転倒を防止する。
 - ・主灰、スラグについては、コンクリート製貯留ピットに貯留する。
 - ・いずれも屋内で貯留し、シャッターの取り付けなどにより飛散しにくい構造とする。
 - ・浸水の影響を受けることのないよう、貯留場所を考慮する。